

がん医療に携わる医師に対する 緩和ケア研修の 課題とこれからの展望

1

PEACE

Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education

JSPM

これまで…

- 2007年、がん対策推進基本計画でがん診療に携わる全ての医師を対象に、緩和ケアについての基本的な知識を習得することが目標となる
- 2008年に出された開催指針に準拠したプログラムとしてPEACEが作成された
 - 研修時間12時間以上
 - がん疼痛、からだと心のつらさの緩和、がん診断を伝えるコミュニケーションに主眼

2

PEACE

Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education

JSPM

…これまで

- ・指導者研修会修了者（平成28年3月31日）
 - 緩和ケア・精神腫瘍学あわせて 3,118名
- ・緩和ケア研修会（平成28年3月）
 - 開催数 4,125回
 - 研修会修了者 73,211名

3

PEACE

Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education

JSPM

研修会の目的と対象

- ・学習到達目標を初期研修修了時の医師が達成すべき基本的な緩和ケアの能力と設定
 - 緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、緩和ケアに特化した在宅医など専門家の教育ではない
- ・具体的な内容
 - がん疼痛のマネジメント（WHO方式がん疼痛治療を含む）
 - 体とこころの苦痛の緩和
 - がん診断を伝える（コミュニケーション）

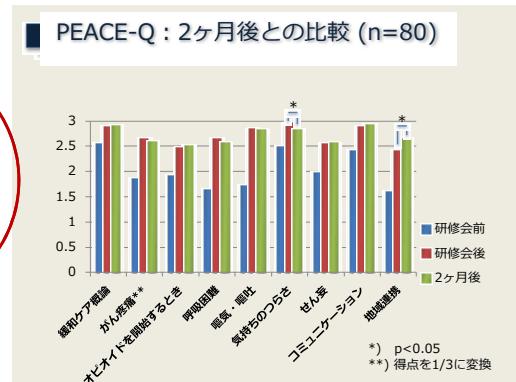
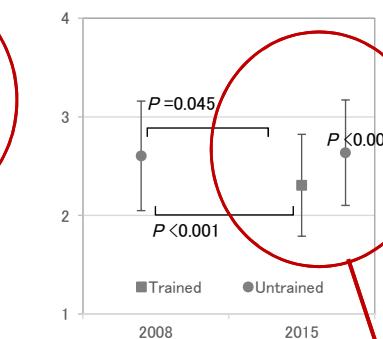
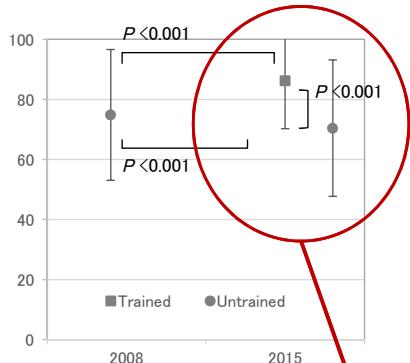
4

PEACE

Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education

JSPM

PEACE研修会の成果



知識が向上

困難感が低下

研修会の受講により、医師の緩和ケアに関する
知識は向上し、緩和ケアの実施に伴う困難感は改善

Yamamoto R. J Palliat Med. 2015, Nakazawa Y. in submission.

5

PEACE

Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education

JSPM

課題（1）

- ・拠点病院の開催負担の大きさ
- ・医師の参加者数の確保が大変になってきている地域がある
 - 都市部以外で顕著な傾向
 - 受講する意志のある医師はほとんど受講してしまっており、開催のコストが受講人数に見合わない
- 講義部分はe-learningを導入し、集合研修を1日で修了できるようにすれば良いのではないか。
- 都道府県によっては、拠点病院ごとではなく、県で年間計画を立てて研修会を実施できるようにしてはどうか。

6

PEACE

Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education

JSPM

課題（2）

- 循環器などがん以外の疾患の緩和ケアへの対応
- 集合研修を行うことの難しさ
 - 経験豊富な医師にとっては物足りない内容であり、初学者にとっては少し難しすぎる

→ 共通する内容の講義部分はe-learningを導入し、その上で疾患別／学習者のレベルに応じた集合研修（疾患に応じた事例の検討とコミュニケーションのロールプレイ）を実施するようにしてはどうか。

7

PEACE

Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education

JSPM

今後の方向性…

- 講義部分はe-learning、テストを実施
 - がん緩和ケアガイドブックと内容を統一
- テストに合格して修了証を発行した者が、集合研修に参加し受講を完了する
 - 集合研修はコミュニケーションに関するロールプレイとグループワーク（事例検討）で構成
 - がん、循環器、各々の集合研修をつくる

8

PEACE

Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education

JSPM

新しいe-learningを導入

- ・ 動画を見るタイプのe-learningは学習者のペースで学習することが難しい
- ・ 参考：Decision Assist（オーストラリア）

The screenshot shows the CARESEARCH palliative care knowledge network interface. At the top left is the logo. Below it, a user profile picture placeholder is followed by the text "Welcome Yoshiyuki Kizawa". To the right is a photograph of two people, likely patients, sitting together. On the left side of the main area, there are three navigation links: "Learning Journal" (with 0 items), "Completed Courses" (with 0 items), and "My Training Record". On the right side, there is a course card for "Module 2 - Patient-cen..." which is 9% incomplete. It includes "START" and "RESUME" buttons. Below the course card is a "Course Categories" section listing "EOL Essentials Module Series", "Module 2 Videos", and "Module 1 Video". At the bottom of the interface is a banner with the text "PEACE Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education JSPM" and the number "9".

e-learning の内容（案）

- ・ 緩和ケア概論
- ・ 患者の意向を尊重するには、意思決定支援
- ・ 治療期の支援、がん治療に伴う有害事象へのアプローチ
- ・ 患者・家族とのコミュニケーション
- ・ 基本の症状緩和（疼痛、呼吸困難、消化器症状、倦怠感、せん妄、気持ちのつらさ、不眠）
- ・ 死が近づいたとき
- ・ 苦痛緩和のための鎮静
- ・ 心不全・COPDに対する緩和
- ・ 専門的緩和ケアサービス
- ・ 在宅における緩和ケア（住み慣れた場所で療養するには）

集合研修の内容

- 学習者のレベル、専門性（がん、循環器、など）などに応じた研修を各都道府県レベルで計画するのが現実的ではないか
- コミュニケーション（1.5時間）、患者の事例検討1（疼痛などの症状：75分）事例検討2（その他（EOL期）：75分）で構成

11

PEACE

Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education

JSPM